



平成30年度 事業所職員向け 児童発達支援自己評価表集計結果

公表日：平成31年3月29日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	✓		個別療育ブースのスペースは適切だが、グループ療育時のスペースは活動によってはやや狭く感じるためパーテーションの移動等で改善したい。また、休憩時やクールダウンのためのスペースが十分でないため今後設備面での検討をしたい。
	2	職員の配置数は適切であるか	✓		常時、職員配置基準よりも多い人員を配置しているが、療育後の保護者報告時などに見守りの人員が不足する時間帯が存在する。児童の通所時間や職員の配置を工夫する等して改善したい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	✓		施設内に目立った段差等はなく、トイレに手摺を設置する等、バリアフリー化の配慮をしているが事業所の構造上、やや通路が狭い部分がある。また、入室時におもちゃに目が行ってしまいやすい空間が一部存在している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	✓		生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっている。また、療育ブースでは児童の身体に合わせた机や椅子を準備しているが、おやつを食べる休憩室のテーブルの高さが変えられないため、適切な環境にできない場合がある。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	✓		毎日業務の振り返りと共有を行うことで事業所内でPDCAサイクルの定着化を図っている。また、法人内でも全事業所のスタッフを対象に職員会議やケースカンファレンス、研修を定期的に開催している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	✓		保護者向け評価表を活用することでアンケート調査を実施している。また、年に2回利用者の保護者を対象とした懇談会を実施し、顔を合わせた場で意見交換ができる場を設けている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓		ホームページにて公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		✓	第三者機関による外部評価は実施していない。スーパーバイズ(臨床心理士)を外部講師として委託し、療育サービス面での業務改善に活かしている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓		スーパーバイズ(臨床心理士)によるケースカンファレンス 1回/月 その他職員研修を定期的に開催している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成しているか	✓		毎回の療育時に10分間の保護者とのアセスメントを行うと同時に年に2回個人面談を実施し、より詳細な聞き取りを行った上で計画を作成している。
	11	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	✓		利用者の適応行動の状況を図るため、法人のアセスメントシートを使用している。また、指標該当判断のためのチェックシートも活用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	✓		個別支援計画には、ガイドラインで示されている支援内容から適切な項目が選択され、具体的な支援内容が設定されている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	✓		個別支援計画に沿った支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	✓		個別療育での課題については児童発達支援管理責任者のサポートの下、各療育担当者が立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	✓		毎回の療育の課題の取り組みの様子や進捗から都度、発展をさせているので固定化はしない。また、障がい特性等により意図的に固定化した課題を加えることもあるがその場合も保護者との相談のもとでサービスの提供を行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	✓		個別の療育を基本としながら、児童の状況や課題に応じてグループ療育を組み合わせさせてサービスを提供している。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		✓	業務開始時の打ち合わせと業務終了後の振り返りを行い、確認を行っているが、業務開始時の打ち合わせは準備に追われ、打ち合わせを行えない時もあるため、改善したい
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	✓		業務開始時の打ち合わせと業務終了後の振り返りを行い、確認を行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	✓		各療育毎に支援記録を記入し、支援の検証・改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	✓		年に2回モニタリングを行った上で保護者と個別面談をし、個別支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	✓		相談支援事業所のサービス担当者会議に招集された場合は該当児の療育担当者または児童発達支援管理責任者が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	✓		必要に応じて市の保健相談センターやその他関係機関と連携をした支援を行っている
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		✓	医療的ケアが必要な児童および重症心身障がいのある児童への児童発達支援の提供実績は今のところない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えているか		✓	医療的ケアが必要な児童および重症心身障がいのある児童への児童発達支援の提供実績は今のところない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		移行に伴っては保護者や関係者の要望、許可があれば支援内容の共有や配慮すべき点等の情報提供を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		移行に伴っては保護者や関係者の要望、許可があれば支援内容の共有や配慮すべき点等の情報提供を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓		児童発達支援センターを含めた定期的な連絡会に参加し、連携をしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		✓	法人で企画・開催するイベントを通じて地域の子どもたちと交流する場を設けているが放課後児童クラブや児童館等との交流は法令上の適正な施設運営の観点からも行っていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	✓		海老名市の自立支援協議会の「チーム育つ学ぶ」への参加や本大会に積極的に参加している
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓		毎回の療育後に必ず保護者と情報共有をする時間を設け、児童の状況や課題について共通理解をもてるようにしている
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		✓	毎回の療育後の保護者への報告の時間やその他要望に応じた相談時間においてペアレント・トレーニング等も行える時間を設けているが、各指導員の知識・能力によっては十分でない場合もあるため、研修等を通じて改善を図ってきたい

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓		新規契約時ならびに毎年の契約更新の際に十分に説明を行う機会を作っている
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	✓		年に2回モニタリングを行った上で保護者と個別面談をし、見直しを行った個別支援計画を保護者に提示し、その同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓		毎回の療育後の時間に保護者からの悩み等に対する相談に応じている。また、年2回の個人面談の際にも相談を受け付けている。その他、保護者の要望と必要に応じて別途相談の時間を設けている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	✓		年に2回、保護者を対象とした懇談会を開催している。またその他定期的に保護者を対象とした茶話会を開催している。その他父母の会の研修、勉強会や懇親会に参加している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓		事業所に苦情・相談受付窓口の掲示と意見箱を設置し、担当職員を含めた対応体制を整備し、申入れや相談があった場合は迅速かつ適切に対応できるようにしている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓		各イベントの様子や活動概要等はHPにて掲載すると同時に行事予定や連絡体制等の情報は利用者メーリングリストにて発信している
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	✓		個人情報の取り扱いについて保護者に文書にて説明を行った上で、肖像権の意向書を取るなど、十分に注意して取り扱っている
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓		意思疎通や情報伝達のために、ケースや状況に応じた配慮を行っている（保護者とは連絡帳を活用、発語の少ない利用者とはコミュニケーションカードやサイン言語の活用）
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓		利用者だけでなく、地域住民等一般の方も広く対象としたクリスマスコンサートを開催することで地域に開かれた事業運営を図っている
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	✓		非常災害時等の緊急対応マニュアルは事業所に非常災害対策計画を備え置き閲覧できるようにしている。また、感染症対応マニュアルも策定しているが、不審者等に対する防犯マニュアルは未策定のため、今後整備していきたい。また、職員ならびに保護者への周知も同様に改善していきたい
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	✓		年に1回以上の避難訓練を行っている
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	✓		サービスの利用開始前に保護者へ聞き取り面談を行い、服薬やてんかん発作等、児童の状況を確認しているが予防接種の経歴等は確認していない
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		✓	食物アレルギーのある児童については、保護者からの聞き取りをもとにおやつの内容を変える等の対応を行っているが、保護者から医師の指示書の提出を受けた実績はない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		✓	日々の療育で想定される危険や実際に起きた事例について注意喚起は行われているが共通のヒヤリハット事例集は作成できていないため、今後職員から事例を収集し、作成をしたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓		神奈川県「障がい者虐待防止・権利擁護研修」を修了した職員が職員研修にて伝達研修を行った
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	✓		やむを得ず身体拘束を行う場合については契約書等に明記の上、保護者に説明しているが個別支援計画に記載はしていない